

# 中国・内モンゴル民族大学に於ける美術教員養成のための カリキュラムに関する一考察

張 春 梅\*・五十嵐 史帆\*\*  
(平成28年 月 日受付；平成28年11月21日受理)

## 要 旨

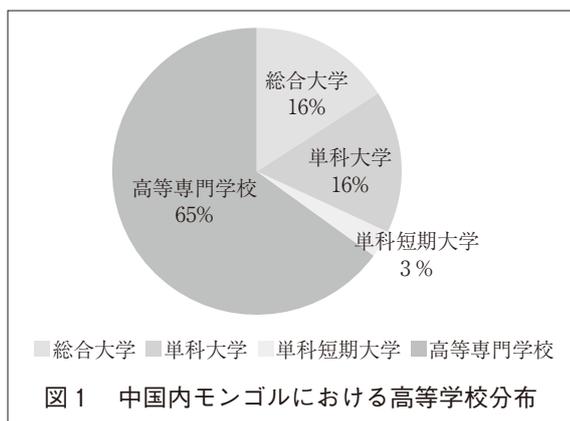
本研究は、教育体制の異なる、中国（内モンゴル民族大学）と日本（上越教育大学）の二つの大学のカリキュラムを比較し、相違点の確認、分析考察を行うことによって、内モンゴルの美術教員を養成するためのカリキュラムの改善を促すことを目的とする。本論では、第一段階として、内モンゴル民族大学における美術教員を養成するためのカリキュラムの構成を明らかにした。内モンゴル民族大学においては、美術教員の養成に関する教育内容を、「教養・共通教育」「教科教育」「専門教育」及び「実践教育」の4領域にわけている。カリキュラム構成を見ていく中で、美術の実技に重点をおく傾向が見られること、教育実習が4年次のみに長期で実施されること等の問題が浮かび上がってきた。

## KEY WORDS

Inner Mongolia Ethnic University 内モンゴル民族大学      arts teacher 美術教員  
training 養成      curriculum カリキュラム      considerations 考察

## 1 はじめに

中国内モンゴル自治区においては、高等教育機関は37校ある。その中、総合大学6校、単科大学6校、単科短期大学1校、高等専門学校24校である（図1）。内モンゴル民族大学は、内モンゴル自治区通遼市に位置し、内モンゴル自治区東北地方における唯一の総合大学である。内モンゴル民族大学の前身は、1958年創立の内モンゴル民族師範学院であり、2000年に、内モンゴル蒙医学院、哲里木牧畜学院と合併し、内モンゴル民族大学となった。2016年現在、全日制学部生は20,898人がいる。美術コースにおいては、在学生（大学院生を含む）490人と教職員55人がいる。



内モンゴル民族大学の学部は4年制と5年制があり、学年1年は2つの学期に分けられている。授業科目は「必修科目」と「選択科目」の2種類がある。また、選択科目は規制の選択科目と任意の選択科目が設置されている。内モンゴル民族大学の美術学院は「師範類美術」と「非師範類美術」に分かれ、「師範類美術」は美術教員の養成を目的とするもので、油絵、版画、水彩、中国画及び彫刻の5分野が含まれている。「非師範類美術」は実用美術とも呼ばれ、グラフィックデザイン、民族工芸デザインとデジタルメディアデザインの3分野が含まれる。

本稿では、内モンゴル民族大学・美術学院における「師範類美術」を対象とし、「教養・共通教育」「教科教育」「専門教育」「実践教育」における四つの教育内容から、美術教員を養成するためのカリキュラムの内容及び比率構成を考察し、その特徴を明らかにする。

「師範類美術」に於ける育成目標は次のように述べられている。本教科は問題解決能力と革新能力を重視する徳、智、体の全面的な育成を目指し、美術教育における基礎知識・技

## 2 美術教員養成における育成目標及びカリキュラム構成

### 2.1 育成目標

師範類美術に於ける育成目標は次のように述べられている。

本教科は問題解決能力と革新能力を重視する徳、智、体の全面的な育成を目指し、美術教育における基礎知識・技

\*内モンゴル民族大学      \*\*芸術・体育教育学系

能を身につけ、基礎教育及び研究活動を行う能力を備える美術教育者及びその他美術と関連する仕事のできる人材の育成を目標とする<sup>(1)</sup>。

## 2. 2 育成規格

卒業生は以下に述べるような資質や能力を備えるとされている。

### 2. 2. 1 資質的要求：

愛国心を持ち、社会主義を愛し、中国共産党の指導を擁護する。マルクス主義、毛沢東思想及び鄧小平理論の基本原則を理解する上で、祖国の富強や民族の振興に貢献し、中華民族の優秀な文化を伝承する使命感を貫徹すること。美術や美術教育事業を愛し、健康な体格、良好な心理的素質及び積極的な生活態度を備えること<sup>(2)</sup>。

### 2. 2. 2 知識的要求：

美術における専門知識や技能を身につけ、現代美術教育理念を理解し、芸術的素養を備える。民族における伝統文化を愛し、外国語を修得することで領域内の外国書籍を読める。または、コンピュータの基本的な応用の方法を身に付ける。以上で述べた内容を現代教育の手段として美術教育活動に活かす<sup>(3)</sup>。

### 2. 2. 3 能力的要求：

美術における鑑賞や評論及び造形能力を備え、創造力と技術革新、実践の能力を身に付け、美術課程の性質、価値と目標を理解する上で美術教育活動を行う。美術教育における研究活動を行う能力及び授業開発能力を備える。中国画、油絵、版画、水彩、彫刻などの該当専攻の方向における知識や技術を身に付ける<sup>(4)</sup>。

## 2. 3 主な授業科目

内モンゴル民族大学における美術教員を養成するための主な授業科目は「美術概論」「中国美術史及びその作品鑑賞」「外国美術史及びその作品鑑賞」「デッサン」「色彩」「スケッチ」「中国画」「油絵」「版画」「水彩」「彫塑」「教師総合資質」「教育学」「現代教育技術」「課程と教育論」などがある。

## 2. 4 学制と単位

内モンゴル民族大学における美術教員の養成は、4年制のもとに全2,772時間である。学生が全学年を通して履修すべき単位は180単位であり、その中の必修科目は147.5単位、選択科目は32.5単位とされる。必修科目は24時間ごとに1単位とする。選択科目は36時間ごとに1単位とする。教育実習、卒業論文及び卒業制作は一週間の学時に応じて1単位を獲得する<sup>(5)</sup>。

## 2. 5 カリキュラム設定及び時間、単位における比率配置

表1 カリキュラム設定及び時間、単位における比率配置<sup>(6)</sup>

	課程類別		履修区分		時間		単位		比率	
教養・共通教育	思政教育		必修		272	976	17	25%		
	専門教育		必修		512		28			
	資質教育		選択		192		8		4%	
教科教育	教科共通		必修		288	632	19.5	23%		
	教科核心		必修		344		20.5			
専門教育	専門主幹		必修		528	1116	33	18%		
	専攻方向		選択(規制)		588		24.5	14%		
	専攻選択		選択(任意)							
実践教育	専門実践		必修		16	16	22.5	16%		
	創新実践		必修		32	32	3			
	応用実践		必修		0	0	4			
時間合計	2772	必修	1992	72%	単位数合計	180	必修(147.5)	82%		
		選択	780	28%			選択(32.5)	18%		

表1のように、内モンゴル民族大学における美術教員を養成するためのカリキュラムは主に「教養・共通教育」「教科教育」「専門教育」と「実践教育」4領域にわたって行われている。その中の「教養・共通教育」は全学生取り組む教育内容である。「教養・共通教育」は53単位で全卒業要件単位数に占める割合の29%を占める。「教科教育」は美術教員を養成するための基軸的授業科目として位置づけられ、美術教員として備えるべき基礎知識や技能を学ぶ授業科目である。また、「専門教育」は美術教員を養成するために分野ごとに深く深化した教育内容である。最後に、「実践教育」は大学と教育現場や社会と結び付け、教員を養成するための現場経験を積み重ねるための科目であ

り、教育実習や外出写生、卒業論文及び卒業制作などの内容を含んでいる。

## 2. 5. 1 教養・共通教育

「教養・共通教育」の具体的な授業は、表2のように設定されている。

表2 教養・共通教育における授業の構成<sup>(7)</sup>

課程類別	授業科目	単位数	時間	履修年次	評価基準
思想政治理論課程	マルクス主義の基本原理	3	48	2	試験
	毛沢東思想と中国による特色の社会主義理論	6	96	2	試験
	中国近・現代史綱要	2	32	1	試験
	思想道徳教養と基礎法律	3	48	1	試験
	民族の理論と民族政策	2	32	1	試験
	情勢及びその政策	1	16	1	試験
専項教育	大学外国語	14	224	1, 2	試験
	大学コンピュータ基礎	2	32	1	試験
	画像処理ソフト	3	48	1	試験
	大学国語	2	32	1	試験
	体育	4	128	1, 2	試験
	軍事理論と訓練	1	16	1	考査
	大学生における職業発展及び就職指導	2	32	1	考査
資質教育	人文・社会科学領域	8	192	注：4領域にわたって8単位を取ることを要する。	
	芸術審美領域				
	自然科学領域				
	応用技術領域				

内モンゴル民族大学が実施する「教養・共通教育」は、「思想政治理論課程」「専項教育」「資質教育」の3領域に類別され、その内容はにわたっている。「思想政治理論課程」科目群は、先人の知恵やその思想を学ぶとともに、愛国心を育て、基礎能力を培い、人間や社会を理解するために必要となる知識であると考えられる。例えば、「マルクス主義の基本原理」においては、「社会主義思想」「弁証法的唯物論」「資本主義」の各分野に触れることによって、その思想や方法論に触れる一方、学生に社会主義を理解させ、愛国心を持たせる。そして、人間や社会への問題意識や関心を高める目的もある。また、中華人民共和国は56の多民族の国である。少数民族が集まって住んでいる地区では区域的自治を行い、各民族は多様な歴史や伝統的文化を持つため各少数民族には自らの文化・習慣・信仰を持たせる。多様な文化を発展させる上では、民族の理論や民族政策を理解しなくてはならない。民族の理論及び民族政策科目を設置することによって、各民族を理解し合い、多様な文化を発展させる目的にある。さらに、言語はコミュニケーションのための道具であるとともに、人類の創造した文化の基盤でもある。またはグローバル化によって、英語や英語以外の言語の習得を通じて、他国の異文化や慣習及び価値観などの相違を理解し、より多元的な世界観を持つことが期待される。また近年のパソコンやインターネットの普及によって、コンピュータの応用能力も基礎能力として重視され、共通科目として、「大学コンピュータ基礎」や「パソコンによる画像処理」等の科目が設置された。

「専項教育」科目群は、「軍事理論と訓練」や「大学生における職業発展」及び「就職指導」等の科目が含まれる。中国においては、毎年9月1日は学校の新学年の入学日である。「軍事訓練」は中国の高校生、大学生が高校、大学に進学する際に行われる重要な活動である。軍事訓練では学生たちが受け入れる国防教育のカリキュラムであり、人材養成に重要な措置であると思われる。大学で行われる軍事訓練の目的は、厳格な軍事訓練を通して、基本的な軍事知識とスキルを習得させ、愛国心を鼓舞し、集団の精神や忍耐力を養成することにある。

「資質教育科目」科目群は、大学生にとって、基本的な知識や技能・思考力を修得させるために不可欠な科目で、教養教育の一つであると考えられている。資質教育科目群では、学生は、「人文社会科学領域」「芸術審美領域」「自然科学領域」と「応用技術領域」の四つの領域に渡って、8単位を取らなくてはならない。

以上に述べたように、「教養・共通科目」は主に1年次と2年次で開設されており、教養・共通教育は専門以外の分野を学ぶことで、基礎能力や基礎教養を培う一方、考え方や視野を広げることも求められる。

## 2. 5. 2 教科教育

「教科教育」における具体的な授業は、表3のように設定されている。

表3 教科教育における授業の構成<sup>(8)</sup>

課程類別	授業科目	単位数	時間	履修年次	評価基準
教科共通	教育学	3	48	3	試験
	教師としての総合資質	3	48	2	試験
	現代教育技術	2	32	3	試験
	書道と板書	1	16	1	試験
	教師に応じる話す能力	1.5	0	2	考査
	交響楽鑑賞	2	32	3	試験
	作文基礎	2	32	3	試験
	映画作品鑑賞	2	32	3	考査
	中国文化史	3	32	1	試験
教科核心	中国美術史及びその作品鑑賞	2	32	1	試験
	外国美術史及びその作品鑑賞	2	32	2	試験
	美術概論	2	32	3	試験
	コンピュータ絵画応用	1.5	24	2	考査
	平面構成	1.5	24	1	考査
	色彩構成	1.5	24	2	考査
	中国画	2	32	2	考査
	油絵	2	32	2	考査
	彫刻	2	32	2	考査
	版画	2	32	2	考査
	水彩	2	32	2	考査

教科教育は、卒業要件の全単位数に占める割合は23%であり、「教科共通」と「教科核心」の内容が含まれている。教養・共通教育は内モンゴル民族大学各専門全体の必修科目であることに対して、教科教育は教育教科または美術教育に関わる授業科目である。教科教育における教科共通科目は教員としての基礎的知識や技能を習得する授業科目である。その中に「教育学」「教師としての総合資質」「現代教育技術」や「教師に応じる話す能力」等の授業が設置される。このような授業を通して、さまざまな視点とアプローチから教育を分析し、健全な社会と人間の育成、そしてそのための教育システムや政策、方法を専門的に学ぶ科目。以上のような教科共通の授業科目に対して、教科核心科目は美術という専門性に偏りつつ、美術教員としての専門的知識や能力を学習する授業科目として設置される。教科核心科目においては「中国美術史及びその作品鑑賞」「外国美術史及びその作品鑑賞」や「美術概論」等の理論的な科目と、「中国画」「油絵」「彫刻」「版画」「水彩」「デザイン」などの美術実技による科目で構成される。「中国画」「油絵」「彫刻」「版画」「水彩」「デザイン」の六分野に渡って取り組むことによって、美術全分野に触れ、美術における実技の基本知識や技術の育成を目指す。教科教育課程は主に2年次と3年次に設置される。

### 2. 5. 3 専門教育

「専門教育」における具体的な授業は、表4のように設定されている。専門教育課程は「専門主幹科目」「専門方向科目」及び「専門選択科目」の内容で構成される。より美術各分野のスキルを深く磨くための授業科目である。専門教育課程は1,116時間があり、全単位数の32%の割合を占める。

「専門主幹科目」は、主に「デッサン」「色彩表現」「スケッチ」「構図デザイン」や「美術課程と教育論」等の科目を中心に構成される。専門主幹科目は全分野の幹として各分野共通して選択する科目である。また、その幹に枝葉が生えて、さらに「中国画」「油絵」「彫刻」「版画」「水彩」の5分野の「専門方向科目」に展開する。美術学院の学生は、3年次から自分の関心や興味に基づいて専攻に分かれ、分野ごとに授業を受ける。例えば、専門方向科目における「中国画」科においては、「工筆花鳥表現技法」「写意花鳥表現技法」「書道」「山水画」「工筆人物技法研究」「篆刻」及び「写意人物の写生と創作」の授業で構成される。「工筆花鳥表現技法」とは、対象の輪郭線を精密に描き、その内側を彩色で埋めていく技法である。それに対し、「写意花鳥表現技法」とは、描く対象の外形を精密に再現しようとするものではなく、対象の「意」（本質、精髓）を描こうとするもので、色彩を用いる場合もあるが、水墨技法を主な技法とする。

表4 専門教育における授業の構成<sup>(9)</sup>

課程類別	授業科目	単位数	時間	履修年次	評価基準	
専門主幹	デッサンⅠ	4.5	72	1	考查	
	デッサンⅡ	4.5	72	1	考查	
	デッサンⅢ	4.5	72	2	考查	
	色彩表現Ⅰ	4.5	72	1	考查	
	色彩表現Ⅱ	4.5	72	1	考查	
	色彩表現Ⅲ	3	48	2	考查	
	スケッチ	1.5	24	1	考查	
	線画	1.5	24	1	考查	
	構図デザイン	1.5	24	2	考查	
	美術課程と教育論	3	48	4	考查	
専攻方向	中国 画	工筆花鳥表現技法	4	96	3	考查
		写意花鳥表現技法	2.5	60	3	考查
		書道	1	24	3	考查
		山水画	3	72	3	考查
		工筆人物技法研究	4	96	3	考查
		篆刻	1	24	3	考查
		写意人物の写生と創作	3	72	4	考查
	油 絵	古典油絵静物写生	2.5	60	3	考查
		油絵風景写生Ⅰ	2	48	3	考查
		油絵人物表現と技法	3	72	3	考查
		印象派油絵研究	2.5	60	3	考查
		油絵風景写生Ⅱ	2	48	3	考查
		近代油絵人物表現	3.5	84	3	考查
		民族文化と油絵制作	3	72	4	考查
	水彩	水彩風景写生	2.5	60	3	考查
		水彩静物写生	2	48	3	考查
		水彩画名家作品模写と研究	3	72	3	考查
		透明水彩人物画の技法	2.5	60	3	考查
		水彩画による重なる技法	2	48	3	考查
		水彩画総合技法	3.5	84	3	考查
		水彩芸術による材料表現	3	72	4	考查
	版 画	白黒木版	2.5	60	3	考查
		銅版画	3	72	3	考查
		スクリーン版画	2	48	3	考查
		総合版画	2	48	3	考查
		少年の版画	1.5	36	3	考查
		伝統色刷りの木版画技法	2	48	3	考查
		色刷り木版画制作	2.5	60	3	考查
		版画ブリッジ	3	72	4	考查
	彫 刻	石膏像模写	2	48	3	考查
人物頭像による彫刻写生と創作		3.5	84	3	考查	
陶芸技法		2	48	3	考查	
彫刻人体写生		3.5	84	3	考查	
彫刻による人物の写生と創作		2	48	3	考查	
レリーフ制作		2.5	60	3	考查	
専門 選 択 課 程	民族特色彫刻創作	3	72	4	考查	
	撮影	1	24	3	考查	
	モンゴル族の図案デザイン	1	24	3	考查	
	材料と芸術研究	1	24	3	考查	
	解剖と透視	1	24	3	考查	
	書道と篆刻	1	24	3	考查	
	芸術概論	1	24	3	考查	
	近現代芸術思潮	1	24	3	考查	
	モンゴル族題材による絵画創作	1	24	3	考查	
	現代美術教育情報	1	24	4	考查	
	中学校美術課程標準と教材研究	1	24	4	考查	
	中学校における模範授業	1	24	4	考查	
	中学校における美術授業の実例分析	1	24	4	考查	

中国画は中国独自の文化、歴史、気候風土のもとに培われてきた芸術であり、「中国画」科では、中国画の画材の使い方、空間や光の捉え方、表現方法等を初歩から指導し、伝統的な素材や技法を使いこなすことが重視され、模写などを通じて中国文化特有の世界観を見つめながら、自由な発想の創作に進めていく。制作題材は主に、「花鳥」「山水」「人物」の内容について制作を展開する。その他に、「書道」や「篆刻」の授業も「中国画」科の一部として設置されている。

「油絵」科において「古典油絵静物写生」「油絵風景写生Ⅰ」「油絵人物表現と技法」「印象派油絵研究」及び「油絵風景写生Ⅱ」の授業で構成される。油絵は西洋で発展し、様々な技法や素材、理論の積み重ねの上に成り立っている。従って、「油絵」科は絵の具の特徴を重視する一方、「古典油絵静物写生」や「印象派油絵研究」等の授業を通して、西洋絵画の今日までの歴史の流れをふまえながら、学生に基本的な造形力、形を捉える力、ものの見方・考え方を身につけ、多様な表現を求められ、体系的に西洋絵画を学ぶ。「油絵」科の制作は主に、「静物」「風景」「人物」の内容について制作を展開する。

「水彩」科においては、「水彩風景写生」「水彩静物写生」「水彩画家作品模写と研究」「透明水彩人物画の技法」「水彩画による重なる技法」「水彩画総合技法」「水彩芸術による材料表現」の授業で構成される。水彩画による技法の種類が豊富なため、水彩画特有の色彩表現や手法が重視される。また、画材の性質を理解したうえで、さまざまなモチーフを描画しながら段階的に制作を行う。水彩科の表現題材は主に、「風景」「静物」「人物」について創作が展開する。

「版画科」においては、「白黒木版」「銅版画」「スクリーン版画」「総合版画」「少年の版画」「伝統色刷りの木版画技法」「色刷り木版画制作」「版画基礎」の授業で構成される。白黒木版や伝統色刷りの木版画は、内モンゴル民族大学が位置する通遼市に昔から盛な統芸術であり、地域の生活や民俗を反映する題材が盛んに作られ、今日でもその技術力や表現力は高く評価されている。版画科の授業では、木、銅、アルミなどの「版」を介在させて、多彩な表現を行い、伝統的な表現を理解し技術を後世につないでいく一方で、技法の開発もめざましいものがある。理論と実践の両面から版を操る能力を修得し、新しい技法や大胆な表現方式を生み出す創造的な人材の育成を目指している。

「彫刻」科においては「石膏像模写」「人物頭像による彫刻写生と創作」「陶芸技法」「彫刻人体写生」「彫刻による人物の写生と創作」「レリーフ制作」「民族特色彫刻創作」の授業で構成される。「彫刻」科ではカリキュラムの中で主に粘土を使って制作を行い、その他、木や金属等の材料も用いられる。立体表現のための素材を用いた制作を体験することによって、彫刻の基本技術を習得する。「彫刻」科の制作は主に、「人物」と「民族題材」について制作を展開する。

「専門主幹課程」は美術の基本として主に1年次、2年次に履修することに対して、専門方向課程は美術各専攻の深化する内容として主に3年次、4年次に履修する。専門主幹課程は必修科目として33単位を修得する必要があることに対して、「専攻方向課程」は24.5単位を修得しなくてはならない。専攻方向による選択（規制）科目の足りない単位は「専門選択課程」（任意選択）から科目を取って24.5単位に足すようにする。例えば、「中国画」科では、専攻方向課程の全単位数が合計18.5単位である。24.5単位から不足する6単位分は専攻選択から授業科目を取って単位を満たすこととなる。

「専攻選択課程」は「撮影」や「モンゴル族の図案デザイン」「解剖と透視」「芸術概論」等全部12科目があり、学生が興味や関心によって自由に選択することができる。

#### 2. 5. 4 実践教育

「実践教育」における具体的な内容は、表5のように設定されている。「実践教育」は大学と教育現場や社会を結び付け、学生一人ひとりが「社会人」として責任のある行動をするように自覚させ、コミュニケーション能力や教科指導力の向上が期待される。「実践教育」は必修科目として、「専門実践」と「創新実践」と「応用実践」の部分で構成される。

「専門実践」は、「板書訓練」「新入生研討課」「教育実習」「下郷写生」「芸術実践」及び「卒業制作」等の科目が設けられている。その中の「教育実習」「卒業論文」及び「卒業制作」が主な実践活動として重視されている。「教育実習」と「卒業制作」は4年次の前期と後期に実施され、前期12週間・8単位と後期9週間・6単位である。内モンゴル民族大学においては、毎年実習予定地や実習校及び指導教官は大学が指定し、教育実習生は、実習期間中に実習校の校長及び指導教諭の指導を受け、教育活動に参加する。

そして、教育効果の評価と学生の制作意欲の向上を目的とする「卒業制作」は、大学を卒業する前に大規模な活動として行われる。卒業制作展は学生たちが作った作品を展示し、4年間の成果を展覧会などで発表することによって自信をつけ、社会への踏み出す一歩であるとも言える。卒業論文は卒業制作と並行して行って4単位である。

また、「下郷写生」は、学生が大学を出て、農村や町の周辺で写生を行う美術活動であるが、観察力や表現力を高

めるために一週間をかけて行われる。自然や生活の中の形や色の美しさを感じ、感性を働かせながら描く喜びや感動を味わうことによって学生の感受力や思考力を培うことが目指されている。

「芸術実践」は、美術鑑賞力を高め、美術文化に関心を持つために、一週間をかけて行う鑑賞活動である。担当の指導教官は教科ごとに学生を連れて、北京や上海等の美術館や博物館に美術作品を見たり、考察活動を行ったりする。以上が主な専門実践の内容である。

「創新実践」や「応用実践」は、主に学生における就職指導や労働者としての職業能力の養成のために設けた授業科目である。「実践教育」の全授業29.5単位のうち、「専門実践」は76%を示す22.5単位であり実践教育の中で最も重要な教育内容である。

表5 実践教育における授業の構成<sup>(10)</sup>

課程類別	授業科目	単位数	時間	履修年次	評価基準
専門実践	板書訓練	1	0	2	考查
	新入生研討課	1	16	1	考查
	学年論文	1	0	2, 3	考查
	教育実習	8	12週間	4	考查
	卒業論文	3	0	4	考查
	下郷写生Ⅰ	0.5	1週間	2	考查
	下郷写生Ⅱ	1	1.5週間	3	考查
	芸術考察研修	0.5	1週	3	考查
	芸術実践研修	0.5	1週	4	考查
	卒業制作	6	9週	4	考查
創新実践	イノベーション創業教育	1	16	1, 2	考查
	創業実務	1	0	3	考查
	その他のイノベーションの実践	1	0	4	考查
応用実践	労働	1	1週	2	考查
	社会実践調査	1	0	1, 2	考查
	その他の応用実践	2	0	4	考查

### 3 中国内モンゴルにおける美術教員を養成するための全体的考察

内モンゴル民族大学における美術教員を養成する教育内容は、「教養・共通教育」「教科教育」「専門教育」及び「実践教育」にわけられており、さらに教科内容に応じて一定の科目課程区分を行い開設している。また、各授業科目を必修と選択（規制選択と任意選択）に区分し、これを各年次に配当することによって、教育課程を編成している。

1年次は主に「教養・共通教育」と「専門教育」における基礎科目を主体としたカリキュラム構成である。「思想道德教養と基礎法律」「民族の理論と民族政策」「大学外国語」や「体育」等の授業と「専門主幹課程」における「デッサン」や「色彩表現Ⅰ」「構図デザイン」「美術課程と教育論」などの授業を1年次に学ぶ。

2年次は主に「教養・共通教育」における「マルクス主義の基本原理」「毛沢東思想と中国による特色のある社会主義理論」「大学外国語」「体育」などの授業と「専門主幹課程」における「デッサン」や「色彩表現Ⅱ」「教科教育」における「教師としての総合資質」「教師に応じる話す能力」「外国美術史及びその作品鑑賞」などの授業がある。2年次では教科教育における「色彩構成」「中国画」「油絵」「版画」「彫刻」「水彩」などの授業が開講される。

3年次は分野によって「中国画」科、「油絵」科、「版画」科、「彫刻」科、「水彩」科との5専攻に分かれ、専門分野の学びを深める。教養・共通教育授業は主に1、2年次で修得し終え、3年次からは主に教科教育と専門教育における専攻ごとにそれぞれ該当する授業が設けられる。

最後に4年次では、専門教育における深化した専攻ごとの授業と教育実習や卒業論文、卒業制作がある。以上の内容は内モンゴル民族大学における美術教員を養成するためのカリキュラムの概況である。

さらに、内モンゴル民族大学における美術教員を養成する上で、美術実技における美術教科内容と教育実技における教育教科内容との二つの視点から考察する上で、表6のような状況があらかになった（表6は「中国画」専攻を例としたものである）。

まず、美術実技における美術教科内容は28必修科目と6選択科目に対して、教育実技における教育教科内容は6必

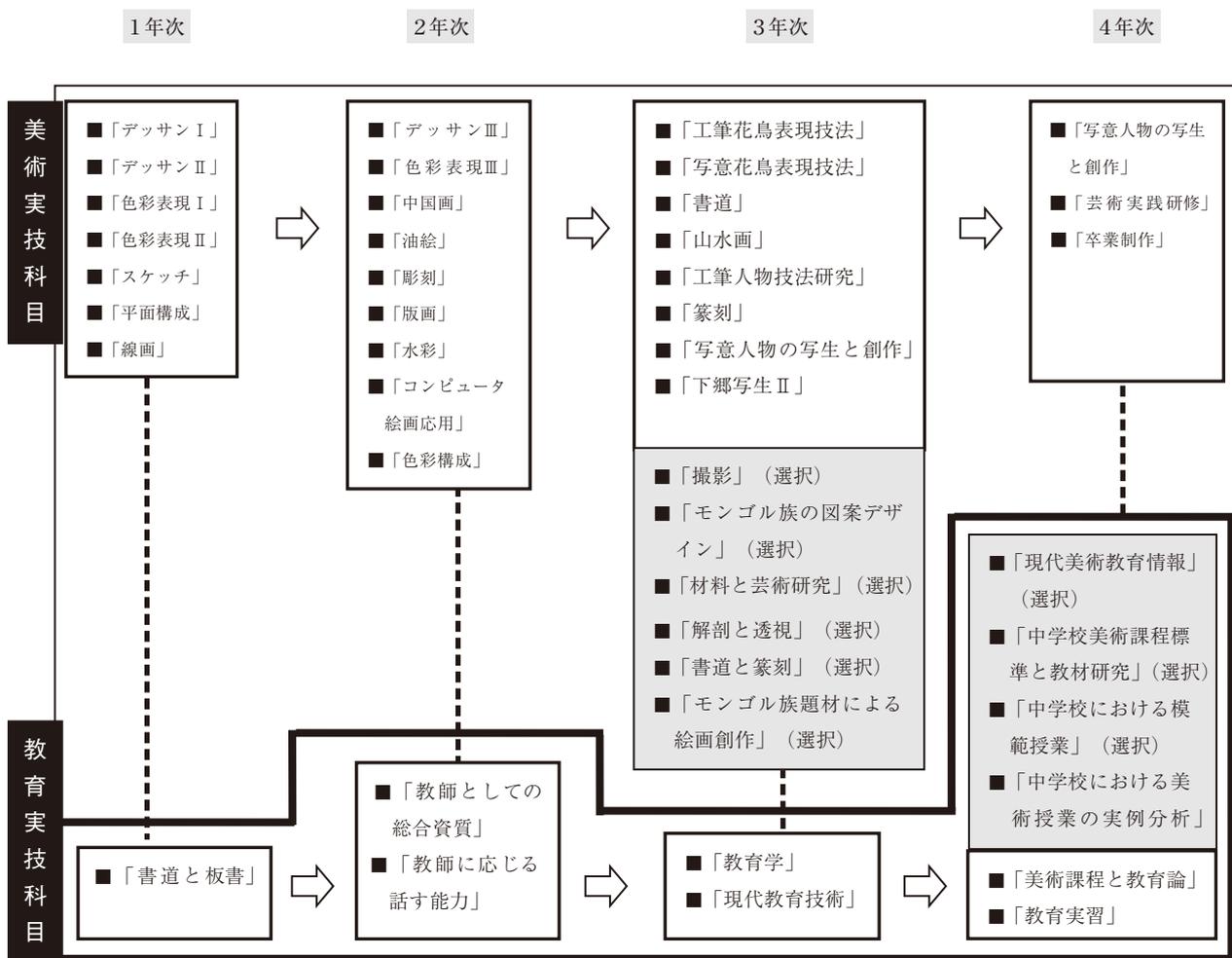
修科目と4選択科目とされる。美術教科必修科目内容は合計77.5単位に対して、教育教科必修内容は合計22.5とされる。以上のデータから、美術実技科目を中心とするカリキュラム設定の特色が明らかになった。

次に、美術実技における美術教科内容については、4年間に渡って、基礎知識・技能からより深化した専攻分野まで体系的に編成されることに対して、教育実技における教育教科内容の設定は少なく、美術実技における美術教科内容のように1年次より簡単な内容編成から4年次より深化した内容編成のような考えが低い。4年間に渡って各科目の関連がなく、一貫制が欠けることが明らかになった。「教職論」や「発達と学習」「教育課程と教育方法」「総合演習」等の科目を含めるなど、充実する教育内容が望まれる。更に、4年次で開設される12週間の教育実習は、1年次から4年次まで段階的に積み重ねることなく、4年次のみで行われる。この方法では、経験を積み重ねることができず、学生の側に戸惑いや不安が残り、学生が自信を持って教壇に立つことが難しい。今後は、学校現場の観察や短期間の体験などを教育実習の前に実施し、経験を積み上げていくような教員養成のあり方を検討する必要があると考える。

最後に、今日の内モンゴル民族大学における美術教員を養成のための美術実技の教科内容と、教育実技の教科内容は並行して、進行することもまた実態である。美術専門に関するカリキュラム内容を、児童や生徒に対する教育論や教育実践と結びつけた内容の授業を検討し、導入する必要があると考えられる。また、美術の内容に「工芸」に関わる内容が扱っていないことも明らかになった。このような内容も大切なものであり、今後は検討し取り入れていく必要がある。

表6 美術実技科目と教育実技科目による実施表（1年時から4年次まで）

注：「中国画」専攻を例とするもの



#### 4 今後の課題

1949年に中華人民共和国が成立し、当時、社会主義国家建設のために、美術教員養成のカリキュラムはソ連の教育制度をモデルにしていた<sup>①</sup>。中国における美術教員養成は社会主義国家体制のもとで、ソ連の影響を受けながら、変革してきた。このような背景の中で、内モンゴル民族大学における美術教員を養成するカリキュラムの構成はそれぞれの時代の変革に応じて、改革に努力し、模索しながら変化している。

本稿では、第一段階として、中国内モンゴル民族大学における美術教員を養成するためのカリキュラムを考察し、分析し、その特徴を明らかにする上で存在する問題点を述べた。今後の課題は、第二段階として、中国（内モンゴル民族大学）と日本（上越教育大学）の二つの大学のカリキュラムを比較し、相違点の確認、分析考察を行うことによって、内モンゴルに於ける美術教員を養成するためのカリキュラムの改善を促すことである。

#### 参考文献

- ① 内モンゴル民族大学, 2015, 『内モンゴル民族大学2015培養方案・美術学（師範類）』, p.1
- ② 同上, p.2
- ③ 同上, p.2
- ④ 同上, p.3
- ⑤ 内モンゴル民族大学, 2015, 『内モンゴル民族大学学分実施細則（155号）』, pp.2-7
- ⑥ 同上, p5
- ⑦ 内モンゴル民族大学美術学院, 2015, 『内モンゴル民族大学美術学院課程教学計画』, p.36
- ⑧ 同上, pp.36-37
- ⑨ 同上, pp.36-39
- ⑩ 同上, p.39
- ⑪ 馬簫風, 2003, 『中国師範教育史』, 首都師範大学出版社, p.39。ソ連とはソビエト連邦の略記。

# Considerations regarding the curriculum for art teacher training in Inner Mongolia Ethnic University (China)

Chunmei ZHANG\* · Shiho IKARASHI\*\*

## ABSTRACT

The aim of this research was to encourage curriculum improvements in art teacher training in Inner Mongolia by comparing the curriculum, identifying differences, and performing an analytical investigation between China (Inner Mongolia Ethnic University) and Japan (Joetsu University of Education), which have different educational systems. As a first step, the curriculum structure to train art teachers in Inner Mongolia Ethnic University was made clear in this thesis. In the Inner Mongolia Ethnic University, the educational content relating to art teachers can be divided into three courses: "Liberal Arts and General Education," "Curriculum Education," and "Education Major and Practical Education." However, when the curriculum structure was looked at, a number of problems emerged. First, there is a tendency to focus on practical art skills and, secondly, a long period of teaching practice is only introduced in the students' fourth year.

---

\* Inner Mongolia Ethnic University    \*\* Music, Art, and Physical Education